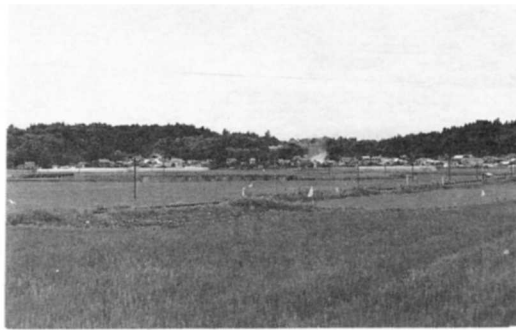
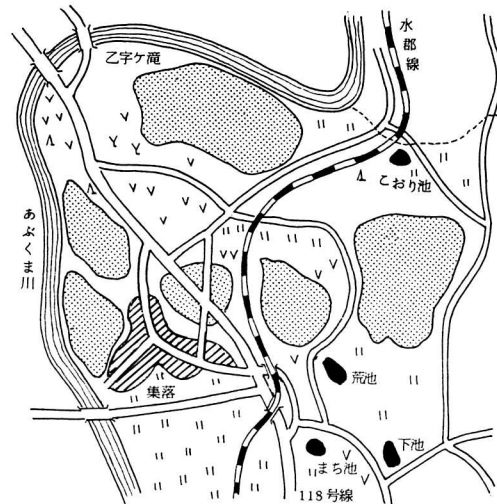


村の西部のうちでも、特に龍崎村（今の竜崎）はいつもひどい水不足で大変困っていました。すぐ近くを、大きなあぶくま川が流れていましたが、村の田畑に引くことができなかったのです。



〔現在の竜崎字花屋ふきん〕



（● は高い土地で山林になっている）

昔（江戸時代の頃）の龍崎村の人々が、水不足で大変困っていた様子を、次の資料を読んで話し合ってみましょう。

ウ 龍崎村の水不足のようす

（玉川村史）

明治7年（1770年）は、ほとんど雨が降らず、全国的に日照りの害を受けました。藩は、寺や神社に雨ごいのきとうをするように命じ、各村でも、千駄焚きや、龍王祭り、太鼓打ちなどをしました。

龍崎村の被害は大変ひどく、食べ物がまったくない家もたくさんありました。しかも、6年前から続いていた水不足のため、村の人々はこまりきっていました。そして、この年は田植えもできなくて、生活していくのさえむずかしくなっていました。当時、村には70戸ありましたが、苦しい生活のため、94年後には、58戸にへってしまっていたそうです。

\* 千駄焚き…… まきをたくさん集めて燃やし、それによって大気をあたためて雨雲をよび、雨をふらせようとする雨ごいのきとう。

\* 龍王祭り…… 龍が天から黒雲に乗っておりてきて、雨をふらせてくれるようにいのる雨ごいのきとう。